



整備の動機や背景

嶮山自治会域は、土地区画整理事業による新規開発された住宅地である。かつて良好であったはずの住環境も、開発から 30 年が経過し、様々な問題が出てきている。もともとファミリー層の居住誘導をはかった分譲地のため、近年、区域内居住者の高齢化が一気に進行してきている。しかし 2 世帯住宅の建設は、敷地面積や建築基準法・横浜市建築基準条例などの建築規制により、ごく一部の敷地でしか、不可能であるため、高齢者の親世帯のみが地域に残されていく傾向がある。現在 240 世帯の自治会で、約 70 世帯が高齢者世帯であり、今後この割合は一気に増加することが確実に予測される。

また市立荇子田小学校のスクールゾーンに全域が指定され、加えて区域北側には中学校建設用地も隣接している。そのために「安全・安心に歩行できる道路」が必要な地域である。

しかし、住宅地内の細道路網であるはずの道路幅員が 6m を越える土地区画整理地区であるため、周辺開発に伴う自動車の交通量の増大とともに、バス通りを兼ねている幹線道路の渋滞回避のための区域内への通過交通が増大し、住環境と住民の安全性、及び、荇子田小学校に通学する学童の安全性を脅かしている。

ところで、地域防災の視点から、自主防災への取り組みをすすき野連合自治会の主導で取り組んでいます。地域では、防災拠点の荇子田小学校に防災倉庫を設置していますが、高齢者が増加し、初期消火などに必要な消火器等の区域内への分散設置を行いたいと検討をしているところです。

今回の提案には、こうした事柄が背景にあります。

地域ニーズや課題

私たちの嶮山自治会は、240 世帯の自治会ですが、約 70 世帯がすでに高齢者世帯になっています。この地域は、土地区画整理による開発で、新規に造られたファミリー層をターゲットにした住宅地であるため、経年変化により、ほぼ同時期に高齢化を迎える地域でもあります。そのため今後数年で、急速に地域として高齢化が急速に進む地域といえます。また、B 地区に隣接し、高齢者の介護施設の社会福祉法人青葉福祉学院・万寿の森も現在は設置・運営されている。市立荇子田小学校のスクールゾーンに区域内全てが指定されてもいる。

しかしながら、住宅地内の細道路網であるはずの道路の幅員が 6m を越える地域であるため、幹線道路の渋滞回避のための通過交通が増大しており、住環境と住民の安全性、及び、荇子田小学校に通学する学童の安全性を脅かしている。特に B 地区では、あまりの危険性のために、敷地外に出たがらない高齢者なども現れてきている。(通過交通の流れは別添図面参照)

こうしたことから、区域内の「安全・安心な歩行空間の整備」は急務と考えている。

また、計画路線である「恩田元石川線」の完成の暁に、現状のままでは、区域内への通過交通がさらに増加することは目に見えており、自治会会員の急速な高齢化を迎える前に「安全安心な歩行空間」を作ることは必要不可欠なことと考えている。

ところで当該地域も所属する「すすき野連合自治会」では、「すすき野連合自治会防犯防災対策協議会」を発足し、本提案の代表者がその実質責任者となり活動しています。また、「地域の「自主防災」として、消火器などの分散配置が必要であると、自治会は以前より考えており、このような防災に関する対策も、道路のボンエルフ化やコミュニティ道路化にともなって同時に整備を進めることにより、防災に関しても安心な住環境を創出したい。この地域での実験・試行は、「すすき野連合自治会防犯防災対策協議会」の今後のあり方のモデルケースとなることが十分に考えられる。

加えて、より良好な住環境の創出のために、私有地の緑化空間の整備促進とともに、歩行空間の緑化整備もあわせて行いたい。

## 2 具体的な整備提案の内容

現況の様子を写真の張り込み等で示すとともに、具体的な整備提案の内容を文章やイメージスケッチ等でお書きください。 注1)

1. 図の赤矢印のように、区域内の一方通行化をはかり、住宅地内の通過交通の抑制をはかる。
2. A地区は一方通行+道路のポネルフ化。B地区は一方通行+コミュニティ道路化。

コミュニティ道路化することにより、住民+学童に安全・安心な歩行空間にしたい

A地区内は  
一方通行化+道路のポネルフ化

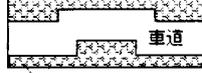
交差点の中に  
シンボルツリーを植えたい

ポネルフと住宅の緑化された  
公園空地を利用した街区道路の  
公園化イメージ

### 道路整備のイメージ

■コミュニティ道路のタイプ

a) 歩車道分離型(クラック型)



A地区

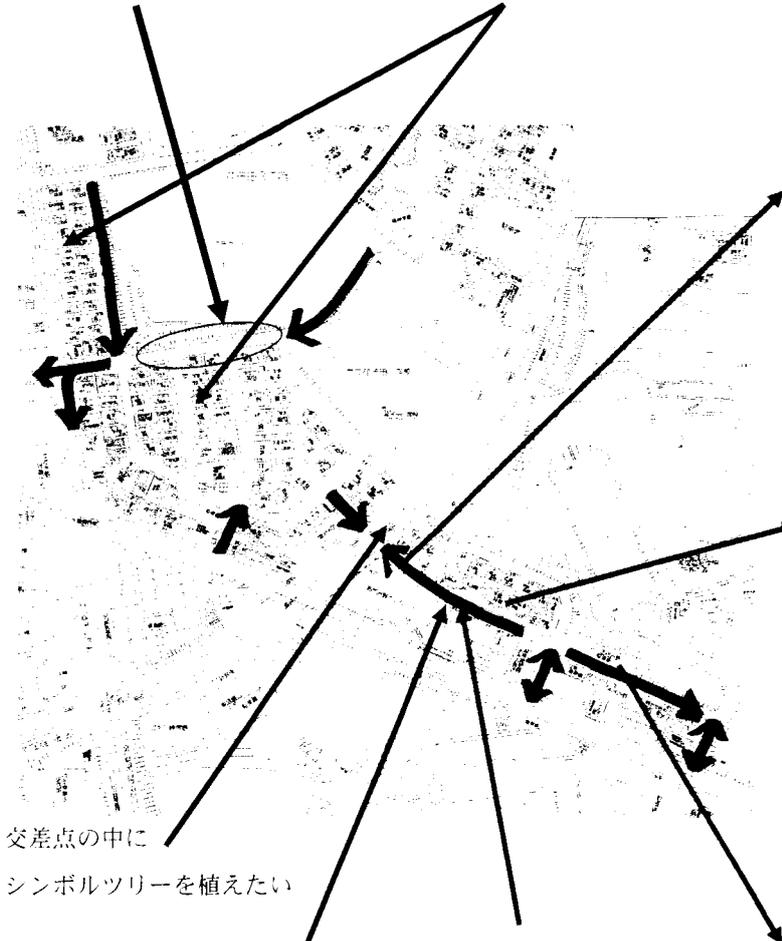
歩道(色や素材の違う舗装)

b) 路面共有型



B地区

フォルト(植樹機)





現況：右折してくる車は必ずセンターラインをオーバーランしてくる



現況：センターラインをオーバーランし速度を上げて通行する地域外車両。



現況：新しくファミリー層のために分譲されるばかりの宅地



整備イメージ：  
一方通行化+コミュニティ道路化

\* 別添図も参照のこと

概算整備費：約 550 万円 (参考)

### 3 整備提案の効果について

<p>整備されたものがどのような人たちに利用され、地域でどのように役立つと考えますか？</p>	<p>整備により、嶮山自治会内の居住者及び当該地域内の道路を通行する佐子田小学校の児童、隣接の市街化調整地域にある社会福祉施設を利用している高齢者などにとって、「安全・安心な歩行空間」が生まれ出される。また、歩行者に安全安心な道路空間は、コミュニティの活性化を生み出すとともに、地域住民の地域に対する愛着を深めることになり、しいては、地域美化運動や地域防災などに対する啓発活動にも寄与すると考える。</p>
---	---

### 4 整備提案の実現性について

<p>整備箇所の地権者や建物所有者、地域組織（町内会・自治会等）への周知状況をお書き下さい。</p>	<p>自治会の下部組織のため、地域内の基本的な合意は得られていると考えています。今回の整備に利用可能な場所の私有地の所有者等には、すでにご理解を得るべく話し合い等を始めています。スクールゾーンに対しての歩道上の白線引きに関しては、以前に道路管理者などと打ち合わせを行いました。今回の整備提案に対する、道路管理者や警察などの行政機関に対しての調整はこれからと考えています。</p>
<p>整備提案を実現するために既に提案グループが持っている資源（ヒト、モノ、カネ）は何ですか？ 注2)</p>	<p>○ ヒト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嶮山自治会員及びすすき野連合自治会の協力が得られる。</li> <li>・ 地域内に居住する様々な専門性を持った人の協力が得られる。</li> <li>・ 佐子田小学校のスクールゾーン協議会や同校 PTA の協力を得ることができる。</li> <li>・ NPO 法人横浜青葉まちづくりフォーラムの専門的協力・支援が得られる。</li> </ul> <p>○ モノ・・私有地の一部を、今回の整備提案のために貸してくれそうな方がいる。</p> <p>○ カネ・・自治会で費用の一部を負担することが可能である。</p>
<p>実現のために、もっと強化したいあるいは、新たに欲しい資源（ヒト、モノ、カネ）は何ですか？ 注3)</p>	<p>○ ヒト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な専門性を持った人の協力が欲しいと思っている。特に、地域内の合意をはかるための専門的なアドバイスが欲しい。</li> <li>・ 地域内の合意の為にも、交通実験を行う必要があると考えるが、その協力者が欲しい。</li> </ul> <p>○ モノ・・市や区、企業の協力を得たい。</p> <p>○ カネ・・市や区の協力を得たい。一番の問題と考える。</p>
<p>施設整備や維持管理について、提案グループや地域住民等がどのように関わろうと考えていますか？</p>	<p>施設整備に関しては、嶮山自治会及び極力自治会員の労働力を利用したいと考えている。また、維持管理に関しては、嶮山自治会の責任のもと、当該施設に隣接をしている地域内居住者の手により維持管理をはかる体制を組織するつもりで検討をはじめている。ただし、道路内に関しては、清掃作業等は地域住民で行いたいと考えるが、道路内の維持管理などに関して二次提案までの検討課題と考えている。</p>

### 5 特にPRしたい点

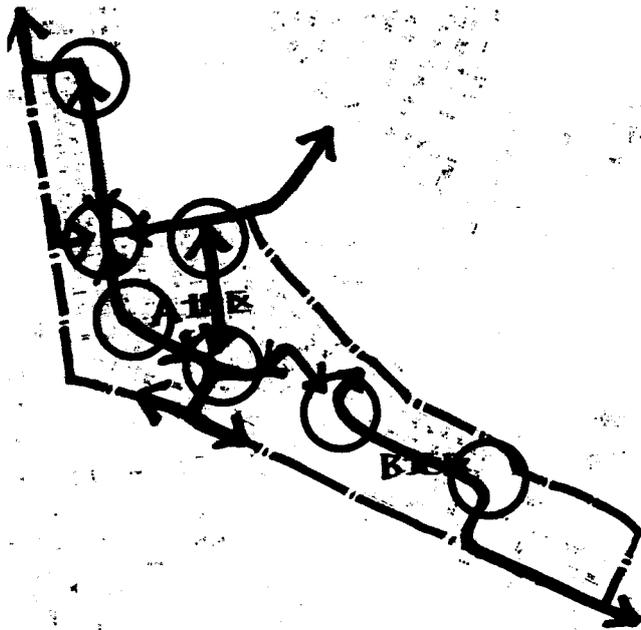
<p>提案内容や実施体制等について、特にPRしたい点があればお書き下さい。</p>	<p>青葉区の住宅地はほとんどが土地区画整理による開発により新規に造られた住宅地であるため、経年変化により、ほぼ同時期に高齢化を迎える地域です。また住宅地内の細道路網の幅員が6mを越える地域が多く、幹線道路の渋滞回避のための通過交通が住環境と住民の安全性を脅かしてしまいます。こうした状況下で、自らの不便さを選択しても「安全・安心な歩行空間の整備」をはかろうとするこの地域での実験・試行は、青葉区における経年変化した土地区画整理事業による住宅地の、地域まちづくりの今後のあり方のモデルケースとなると考える。また、自治会の下部組織としての活動の為、地域合意は確実にかけられると考える。</p>
---	---

## 6 事業スケジュール

1次コンテスト以降、提案の実現に向けて、提案グループが取り組むことについて、事業完了までご記入ください。

	取 り 組 み 内 容 (合意形成、第2次整備提案書づくりなど)
7月	地域の取り組みの概要の取りまとめ。 整備提案に対する、道路管理者や警察などの行政機関に対しての調整開始。 1次コンテスト申請、1次コンテスト参加。
8月	整備提案に対する、道路管理者や警察などの行政機関に対しての調整と同時に、自治会員への周知及び説明の実施後意見交換をはかり意見統一案を作成。 同時に、現在の流入交通の実態把握と交通実験の実施。 地域内の協力者のピックアップ。
9月	概略図面化と業者からの概算見積もりを取り、実施内容の確定をはかる。 自治会員などに対する説明と住民の労働力・資金の提供などの検討。
10月	整備提案に対する、道路管理者や警察などの行政機関に対しての調整完了。 最終案の決定・図面化と、見積もりの作成。
11月	第二次整備提案書の作成と提出
12月	2次コンテスト
2次コンテスト以降（設計期間、整備助成金交付申請時期、着手時期、工事期間、完了時期） 設計期間：3ヶ月、整備助成金交付申請予定：平成18年4月 着手時期：平成18年5月、完成予定：平成18年9月末日	

整備提案の別図（補足）

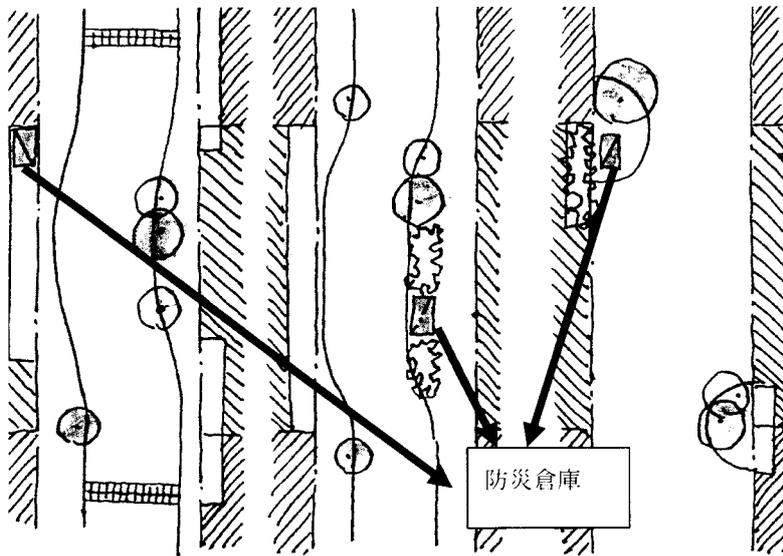


現況説明補足

図の黒矢印のように、区域内に通過交通がある。  
赤丸は、特に危険箇所と考えている箇所である。

整備提案補足：

コミュニティ道路化することにより、住民+学童に安全・安心な歩行空間にしたい

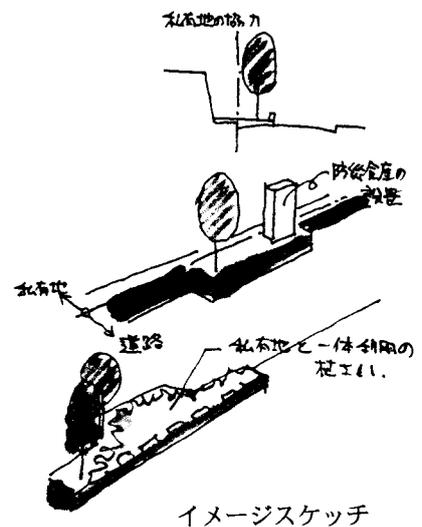


コミュニティ道路化（歩者分離型）

私有地も利用

ポネルフ化（路面共有型）

私有地も利用



イメージスケッチ

\* 道路整備に当たっては、民地（私有地）も利用可能な部分は利用したいと考えている。